

文化遺産ニュース

Cultural Heritage News
from NARA

Vol.
35

March 2023

◎集団研修

- ◎文化遺産ワークショップ(カザフスタン) 1
- ◎個別テーマ研修(ベトナム) 3
- ◎国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題Ⅱ」 4
- ◎文化遺産セミナー「高松塚古墳と東アジアの交流」 5
- ◎ICOMOS CIF参加記 5
- ◎世界遺産教室 6

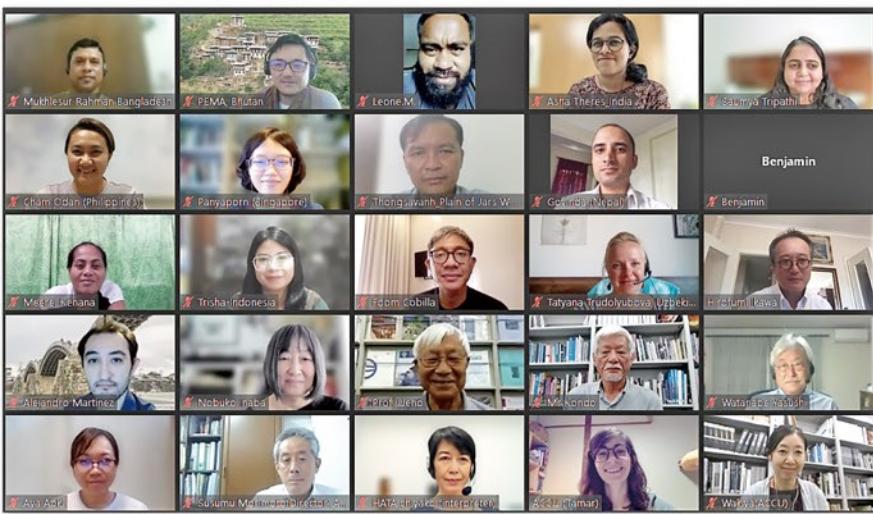
カザフスタンの文化遺産

裏表紙



集団研修

2022年9月1日から30日までアジア太平洋地域13か国からの15名の研修生を対象に「木造建造物の保存と修復」をテーマにオンラインで実施しました。



参加者の皆さん

事例報告の様子

集団研修は、ACCU奈良事務所がおこなう人材養成の中核事業です。「木造建造物」と「考古遺跡」の2種類の研修テーマを、基本的には隔年で交互に実施していく、昨年（2022年）は木造建築物をテーマにしました。

15名の研修生は、政府機関や博物館などで、自国の文化財保護に携わる若者たち（平均年齢30代半ば）で、多くが建築関連の現場で活躍中です。

研修は一昨年度・昨年度に引き続き今年度もオンラインでの実施となりました。対面での研修とは違い実習や臨地研

修・見学をおこなうことができません。そこで少しでも臨場感を味わつてもらうために、東大寺の御協力を得て初めて初めて歴史的建造物の修理現場からの生中継の講義を設けました。現場からの中継は様々な制約がありますが、どういう場所でどのように修理の作業が進められているのか、画面越しながらも見学ができる意義は大きかったです。

オンラインの講義では、ビデオ教材をあらかじめ配信していますので研修生は自分のペースで受講でき、繰り返して視聴することも可能です。また、リアルタイムでおこなう質疑応答には、その

修・見学をおこなうことができません。他の講義の講師にも参加してもらえたことも、オンライン講義の利点だったと思います。



東大寺戒壇堂からの中継講義

■ カリキュラム（概要）

- 参加国
- ・ バングラデシュ・ブータン・フィジー・インド・インドネシア・キリバス・ラオス・モンゴル・ネパール・パプアニューギニア・フィリピン・シンガポール・ウズベキスタン

■ 動画による講義

「世界の木造建造物保存における国際憲章・世界的動向」「アジア太平洋地域の木造建造物」「アジア太平洋地域における文化遺産保護の現状と課題」「日本の文化財を守る仕組み」「日本の木造建造物の歴史的変遷と種類」「日本の木造建造物の保存」「伝統的大工道具の保存」「日本と西洋における修理理念と手法の比較」「単体の木造建造物の調査記録」「木造建造物群の調査と記録」「日本における木造建造物の修理方針の考え方」「日本にかける木造建造物の修理」「日本における町並み保存と住民連携」「木造文化財のアダプティブリユース」「世界文化遺産の遺産影響評価」「木造建造物の危機管理」

■ 東大寺戒壇堂修理現場からの中継講義

■ 日本の修理事業の実際

■ 臨地研修ビデオ

「日本における町並み保存と住民連携（木曾奈良井）」

■ リアルタイムセッション（計6回）

質疑応答（文化遺産保存の世界的動向、日本における木造建造物を守る制度、日本の木造建造物の調査と記録、日本の木造建造物の修理方針、日本の文化遺産の保存と活用）
参加国ケーススタディ



オンライン討議の様子

文化遺産 ワークショップ

2022年10月17日から28日まで
カザフスタンを対象にオンラインで
実施しました。



群馬県立歴史博物館からのリアルタイム中継



3D技術に関するオンライン授業

中央アジアの国を対象とするワークショッピングは、2008年のウズベキスタン以来でカザフスタンでは初めてとなりました。マルグラン記念考古学研究所やパブルダル教育大学の研究員を中心とする人たちを対象におこないました。

ワークショッピングは本来は海外の現地での講義と実習を中心に構成していましたが、コロナ禍で2年前からリモートでの研修になっています。これまでも少しだけ研修生の理解度を上げるために工夫して実施してきました。対面での講義や見学ができないので、今回は群馬県立歴史博物館の御協力を得て、先進的な歴史博物館の御協力を得て、先進的

な展示の試みをされているデジタル埴輪展示室から生中継での講義を配信し、臨場感を持つてもらえるようにしました。

ビデオ教材は、資料の文章部分をロシア語に翻訳し、音声もロシア語に吹き替えています。これをオンライン上で専用ソフトを用いて配信しました。研修生はカザフスタン国内の複数か所からアクセスして、博物館におけるデジタル技術の活用について学習を進めました。カザフスタンは広い国土を持つ国ですから、オンライン研修のメリットがあると思います。



参加者の皆さん

カリキュラム

■オンライン講義

「博物館におけるデジタル技術・実例からみた可能性と限界」「保存科学におけるデジタル技術の活用」「博物館における3Dイメージの活用」

■オンライン実技

「博物館収蔵品の3D記録（SfM-MVSの作成）」

「群馬県立歴史博物館における3Dイメージの活用」

■質疑応答（オンライン）



考古学におけるデジタル技術のオンライン講義

個別テーマ研修

2022年11月10日から25日まで、ベトナムの10名の研修生に対し「考古遺跡における三次元記録法」をテーマにオンラインで実施しました。



オンライン討議の様子



3D技術に関するオンライン実習



参加者の皆さん

語に吹き替えたものを用意しました。

質疑応答とデモンストレーションは、Zoomを活用し、ベトナム語でおこないました。ベトナム語と日本語の間の通訳は、日本人とベトナム人1名ずつを配するとともに、現地の文化財に詳しいコーディネーターも加わって、研修生と講師をつなぎました。双方向の討議を3回おこないましたので、研修生からの質問に對して詳しく回答していくことが可能となりました。

今回の研修ではベトナムの南部社会科学研究所の研究員が多數参加しており、今まで北部に偏りがちであった研修対象者を拡大できたことも成果のひとつだと考えています。

本年は考古遺跡での三次元記録法に関する研修を実施しました。個別テーマ研修の特徴は、参加者の要望に沿ったオーダーメイドのカリキュラムを編成できることと、英語以外の言語でも開催可能なこととありますので、オンラインでもその特質を損なわないように配慮しました。

考古遺物や遺跡を調査記録する際に三次元での記録がおこなわれるようになっています。従来の手測りによる実測図作成ではカバーできない対象への応用が期待される新しい技術で、関心が高い分野になっています。

配信した講義用ビデオは、文章をベトナム語に翻訳し、講師の説明もベトナム語

「考古学調査におけるデジタル技術・実例からみた可能性と限界」
「概説：考古学調査におけるデジタル記録・ドローン、GPR、レーザースキャナー、航空写真、LiDAR」
「考古遺跡の調査記録法・SfM-MVSを使った三次元記録」

■ 質疑応答(オンライン)
■ 実技
■ 動画による講義

カリキュラム(概要)

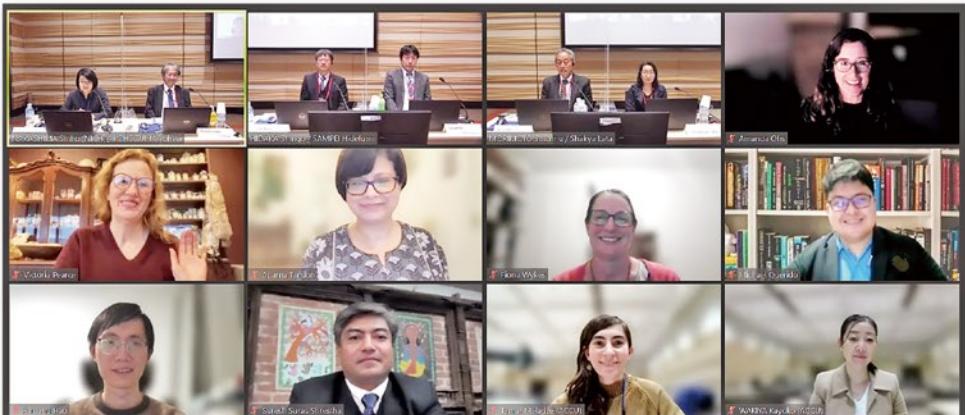
3D素材撮影データの提出



会議の様子



会場の様子



討論の参加者

国際会議

2022年12月14日から22日、文化遺産保護に携わるアジア太平洋地域7か国およびイクロムの実務担当者をオンラインで結んで「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題」をテーマに意見を交わしました。

ACCU奈良事務所では昨年から3か年の計画で文化財防災について各国の担当者と意見交換をおこなっています。昨年度の会議では「災害時応急対応事例と課題」をテーマとして、自然災害によつて文化財が被害を受けた時にどう対応するか意見を交換しています。2年目の今年度は「災害後の復旧・復興の事例と課題」をテーマにしました。文化庁、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター、イクロムとの共催です。

12月14日から関係者に資料を配信し、21日と22日は奈良市内の会場と各

日本をリアルタイムで結んで、基調講演、事例報告、討論をおこないました。21日はじめに国立民族学博物館の日高真吾さんに「被災文化財を支援する意義東日本大震災からの経験から」と題して基調講演を頂戴しました。次いで、ブータン、中国、日本、ネパール、ニュージーランド、フィリピンの事例報告をそれぞれの国の方が発表しました。

二日目の22日はイクロムのアバルナ・タンドンさんに「より良く復興する(ビル

ディング・バック・ベター)文化遺産とともに」と題する基調講演をお願いし、続いて発表者にコメントーターを加えた参加者全員で「アジア太平洋地域における災害後の復旧・復興の事例と課題」について総合討議をおこないました。

社会的なインフラだけではなく、文化財についても災害からの回復力を強化していくことが課題です。また、復興においては被災状況を正しく評価することが求められます。ただ、修理・修復では伝統的技術と現代的な技術との兼ね合いが問題となりますし、各段階での正確な記録も大切です。また、会議では復興における地域社会や無形文化遺産の重要性が再認識されました。

この会議は、日本と海外31か国から合わせて200名を超えるオブザーバーの方々が視聴されました。昨年度よりも多くの方に参加いただいたのは、オンラインを併用した効果だと思います。来年度にはまとめに当たる会議を計画しています。

参加者の皆さん

- カルマ・テンジン（チベット）
- 郝爽（ジュアン・ハオ）（中国）
- スレッシュ・スラス・シェレスタ（ネパール）
- アマンダ・オース（ニュージーランド）
- フィオナ・ワイクス（ニュージーランド）
- マイクル・ケリド（フィリピン）
- アバルナ・タンドン（イクロム）
- サキヤ・ラタ（立命館大学）
- ビクトリア・ピアーズ（オーストラリア）
- 高妻洋成（文化財防災センター）
- 日高真吾（国立民族学博物館）
- 三瓶秀文（富岡町教育委員会）
- 森本晋（ACCU）



廣瀬覚さんの講演の様子

文化遺産 セミナー

なら歴史芸術文化村のホールで
「高松塚古墳と東アジアの交流」と
題して開催しました。

2022年は奈良県明日香村の高松塚古墳から極彩色の壁画が発見されて50周年であり、高松塚についての数多くの講演会や研究会が開かれています。

高松塚古墳は、世界文化遺産への登録を目指している「飛鳥・藤原の宮都」とその関連資産群の構成資産でもあり、極めて重要な遺跡です。でもその価値は壁画だけにとどまりません。継続しておこなわれてきた研究や発掘調査を通じて様々なことが明らかになってきています。ACCUでは2022年に開村した「なら歴史芸術文化村」のホールを使った初めての文化遺産セミナーを2023年1月29日に開催しました。講師に奈良文化財研究所の廣瀬覚さんを迎えて「高松塚古

セミナー開催案内のチラシ

ICOMOS CIFは、イコモスの教育研修国際科学委員会です。イコモスは、ユネスコの諮問機関として、世界文化遺産の登録審査やモニタリングなどをおこなっています。9月26日から27日にイタリアのフィレンツェで「建造物保存の先進的教育」と題する会議が開催されました。これは、建築遺産の保存に必要な大学教育・民間の研修や資格制度をテーマとするものです。文化遺産の保護をする人に対する研修事業が話題となるため、ACCUの事業内容について発表し、交流を図るために職員を派遣しました。

会議は第一部で建築・考古学の保護に関する教育プログラム・トレーニングの事例が4件報告されました。第二部では現在ヨーロッパでおこなわれている重要な遺産保全・修復と発掘調査についての

壇と東アジアの交流－調査研究の最前線から－と題した講演をいたしました。講演では、高松塚古墳の版築による構築過程や石室の整形と組み立てなどの詳細が明らかにされ、壁画の内容・副葬品とともに唐や朝鮮半島の影響を強く受けていることや律令社会が確立した時期の古墳という特異性がよく分かりました。

今回のセミナーは、2年ぶりに聴衆を入れて開催することができました。また、遠隔地にお住まいなどの理由で直接会場に来ることができなかつた方でも講演を聴くことが可能なように、申し込みのあつた方へ後日ビデオの配信も併用して実施しました。

今回のセミナーは、2年ぶりに聴衆を入れて開催することができました。また、遠隔地にお住まいなどの理由で直接会場に来ることができなかつた方でも講演を聴くことが可能なように、申し込みのあつた方へ後日ビデオの配信も併用して実施しました。



奈良商工高校

世界遺産 教室

高校生ら470名余りが受講しました。



奈良県立大学附属高校

奈良県は数多くの文化遺産に恵まれ、世界遺産も3つあります。奈良県の歴史と文化について学ぶことを足がかりに、日本全体そして世界へと視野を広げて世界遺産教室の意義、世界遺産の現状と課題について学ぶ場を提供するいます。

講師は長年、世界遺産教室の講師を

奈良県内の高校生を対象に、世界遺産に関する知識を深めるとともに文化遺産保護の大切さを理解してもらうために、世界遺産の研究家を講師とした世界遺産教室を出前授業方式で開催しています。今年度は歴史や文化を学んでいる学校からの要望が多く、4校で計5回の教室を開きました。



文化村での世界遺産教室

開催校
法隆寺国際高校・奈良商工高校・奈良朱雀高校
校・奈良県立大学附属高校(2回)

務めておられる、フリーアナウンサーの久保美智代さんです。受講生の皆さんには、コロナ禍で行事に様々な影響が続いている中、世界各地の世界遺産を現地で撮影した美しい映像を見て、講師の熱い語りを熱心に受講していました。

今年度は「なら歴史芸術文化村」を訪れた近畿2府4県の中学生・高校生、引率者を対象に世界遺産教室を開く新たな取り組みも1回実施しました。文化財に対する学習として、文化村の施設見学との相乗効果も期待できると思います。

日本においても、アジア太平洋地域における建築遺産の保存のために必要なトレーニングや資格制度について、情報交換ができる場を持つことが望られます。



発表の様子



参加者とフィレンツェの町



修復現場の見学

発表がありました。

日本においても、アジア太平洋

カザフスタンの文化遺産

表紙の写真：シムケントの都市遺跡



カザフスタンには5件の世界遺産があり、そのうちの3件が文化遺産です。考古遺跡としてはタムガリの岩絵群と、中国・キルギスとカザフスタンにまたがる「シルクロード 長安一天山回廊の交易路網」があります。このシルクロードには、構成要素としてカザフスタンから8件の遺産が登録されています。

もちろんカザフスタンは日本の7倍を超える面積がある広大な国ですから、世界遺産に登

録されていない文化遺産もたくさんあります。交易の中継地として栄えた都市の遺跡の他、巨大な墳墓群なども残されています。

そのうちのいくつかを紹介しましょう。ボロルダイ墳墓群はアルマトイ市の近郊にあるクルガン（墳丘墓）です。日本の協力で遺跡探査などの調査もおこなわれました。シムケント、サウラン、オトルルは都市の遺跡で発掘調査がおこなわれ、一部で遺跡整備も進んでいます。



上左：ボロルダイ墳墓群での探査 上右：雪景色のボロルダイ墳墓群 下左：サウランの都市遺跡 下右：オトルルの都市遺跡

公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター 文化遺産保護協力事務所
Cultural Heritage Protection Cooperation Office, Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO



〒632-0032 奈良県天理市杣之内町437-3
(なら歴史芸術文化村 文化財修復・展示棟2階)

TEL 0743-69-5010

FAX 0743-69-5021

URL <https://www.nara.accu.or.jp/>

E-mail nara@accu.or.jp

交通アクセス

近鉄・JR天理駅から ●バス1番のりばから直行シャトルバス